

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202296		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム胡桃(くるみ)		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町4522		
自己評価作成日	平成 28 年 01 月 09 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4270202296-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 2 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域の方々の支援、ご理解頂き、消防訓練、夏祭り、餅つきと沢山の方々に参加して頂いております。当事業所も町内の行事に出来るだけ参加するよう心がけております。地域の一人として受け入れて頂いている事に、感謝し、これからも日常的に交流を深めて行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの共有フロアには「毎日楽しく明るく元気よく、地域の方と共に、喜びを提供します。」という理念を掲げ、職員が入居者へ明るく接することで入居者が元気づいていることが窺え、理念を日々の実践に活かすよう努められている。日頃より近所の方とも交流し、職員が地域清掃活動に参加するほか、敬老会やクリスマス会などの行事を通じて交流されている。敬老会では職員が入居者へメッセージカードを渡して感謝の気持ちを伝える取組も窺える。同法人内には事業所内保育を設置されており、入居者が子どもと交流する機会も設けている。訪問調査時には、入居者より「管理者がとてもやさしくよいホームである」と直接のコメントもいただいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム胡桃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日を楽しく明るく元気よく、地域の方と共に、喜びを提供します。」を理念とし、地域の方の交流や個々に合った生活を提供するように心がけております。	フロアに「毎日を楽しく明るく元気よく、地域の方と共に、喜びを提供します。」と理念を掲げ、職員が実践に活かすよう努められている。日頃より近所の方とも交流していることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩にでかけ、地域の方たちと挨拶や話をしたり、毎年夏祭りや餅つきなどの行事を行い交流しております。	町内会に加入し、職員が地域清掃活動に参加するほか、敬老会やクリスマス会などの行事を通じた交流に努められている。同法人内に事業所内保育所を設置されていることで、子どもと交流する機会もある。敬老会では入居者へメッセージカードを渡されている。前回の外部評価での提案に基づいた地域の方が参加した避難訓練も実施されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練に地域の方に参加して頂き、避難訓練や消火訓練を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業運営から行事や利用者の近況等の報告を行い、地域から2名参加して頂き、意見交換を行っております。	運営推進会議は奇数月の第2木曜日に実施されている。地域の方は民生委員と町内会班長が参加されている。近所の方が参加されることもある。直近の会議では、避難訓練の実施内容について地域の方からの意見を改善につなげられた事例が窺えた。今後、茶会や食事会の開催も検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりを伝え、連携を深めている。最近では包括支援センター主催の研修会へも積極的に参加しております。	市の担当課職員へ困難事例についての相談等を行い、取組まれている。また、金銭管理等、その方の状況に応じた社会資源を活用されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠解除し、職員で連携して見守りを行っております。身体拘束は基本しない方向でケアに取り組んでおります。	身体拘束は基本しない方向でケアに取り組むよう努められており、センサーの使用もない。現在、1名の方が歩行状態や排泄状況が不安定な為、夜間のみ家族からの同意書を得てベッド柵を使用している。尚、現在は解除に向けて検討されている。引き続き、職員間で検討を重ねると共に、同意書には必要最低限の期間を明確にして取組まれることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したり施設内で、不適切な声掛けが発覚した場合は話し合いをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースは管理者が対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり丁寧に説明しています。利用料金、医療連携体制等はケアマネジャー、管理者が説明し、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはお便りやホームへ来所の際お話し、何でも言って貰えるような雰囲気作りをしています。	ホーム玄関には意見箱を設置し、家族が訪問した際には声をかけて意見等を窺うよう努められている。従前は人手不足などもあり家族より苦情が上がったケースも窺えたが、現在は改善に向けて取り組むよう努められている。	引き続き家族からの苦情内容については改善に向けて取組まれると共に、例えば満足度調査を実施するなど、家族や入居者の意見や要望等を汲み取っていくような今後の取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を行い、意見が言えるようにしています。	月に1回奇数月に運営推進会議に合わせて職員会議を開催している。ホームの運営や行事などについて職員から意見が出されている。風呂場の手すりの設置など、現場からの率直な要望等が挙げられていることが議事録より窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けての支援を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、グループホーム連絡協議会で行われる研修に参加し、情報収集提示し、多くの職員が参加出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会の定例会や研修会に参加し、交流や仲間作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントで、利用者の不安を理解し、要望をお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている物を理解し、どのような対応が出来るか事前に話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応が必要な相談者には可能な対応を柔軟に行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より労りや励ましの言葉を頂く場面もあり、職員も利用者を人生の先輩とし、協力しながら和やかな生活が送れるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へはホームでの生活の一場面をお便りや写真にてお伝えし、行事への参加の声掛けを行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々教会や買い物へ出かけられたり、ご家族以外の面会も多く見られ、馴染みの関係維持に努めています。	これまでの関係性について、入居前に家族や本人から情報を得たり、入居後についても訪問する親族等から情報を得ている。教会へ家族と共に行ったり、買い物や食事等へ行くケースもある。尚、現在家族や知人の方についてはホーム行事への参加が少ないため、参加を働きかけたい旨の意向が窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が連携し、情報を共有出来るようにしている。利用者同士の交流は活発に行われています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた利用者がおられ、相談等があった場合は対応し、支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け、把握に努めて言葉や表情からその真意をさし測ったり、その都度話を聞くようにしています。	アセスメントシートを活用して本人の基本情報を把握し、入居後はモニタリングシートも活用されている。現在、3カ月に1度は情報を見直し、介護計画と連動して対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者をはじめご家族や地域の方の力を借りながら継続的に行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し、生活・心理面の視点や出来ない事より出来ることに着目し、その人全体の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換やモニタリングやカンファレンスを定期的に行っております。	現在介護計画は3カ月毎に見直しを実施されている。日々の業務日誌、申し送りノートを活用し、職員間で共有するよう努め、記録にはサインを残している。特別な気づきなどは口頭でも伝えるようにしている。但し、職員によっては確実に履行できていないケースも窺える。	職員間での情報共有・伝達体制を確実にできるように留意して取り組むことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄・血圧等、身体的状況及び日々の暮らしの様子やエピソードを記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院の送迎等の必要な支援はその都度柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活を続けられる様民生委員さんと意見交換する機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっており、受診や往診は利用者やご家族の希望に応じて、対応しております。	往診が月に2回あり、歯科の往診を利用されている数名の方には、口腔ケアも実施されている。受診については職員が同行して支援し、受診内容によっては家族へも報告されている。服薬管理については、管理者が金曜日に薬をセットし、職員が服薬した後にチェック表に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さない様、早期発見に取り組んでいる。変化があれば、主治医へ報告し、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者への支援方法に関する情報を医療機関へ提出し、ご家族とも、回復状況の情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の意向を踏まえ職員が連携を取り、安心して納得した最後を迎えられるよう心がけて取り組んでおります。	看取りの指針を作成し、本人や家族の意向を踏まえた対応ができるよう努められている。看取りを経験された職員もあり、終末期には家族が宿泊もできるように配慮されている。職員の不安感については、いつでも管理者へ連絡できる体制を整え、共に協力医との連携を密にし、取組むよう努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の方法を大きく掲載したり、施設外の研修等に参加しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署、地域の方の協力を得て避難訓練を行っています。その他にホーム内での自主避難訓練を行っております。	年2回の避難訓練が実施され、合同訓練、自主訓練実施に当たって、前もって地域住民に(回覧版等)連絡し、参加を呼び掛けている。尚、入居者情報一覧については、避難時に全てを持ち出すことは難しいと思われる。	入居者情報一覧については、非常時でも持ち出しやすいよう工夫することが望ましい。また、非常時における居室の不在確認方法についても検討して対応することに期待したい。訓練の振り返りや検証した際の記録を残しておくことが望まれる。今後、自然災害を想定した訓練、備蓄の充実についても対応していくことに期待したい。尚、通報装置の登録先については確認しておくことを願います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な際もまず利用者の気持ちを考え、さりげないケアを心がけております。	その時々で声のかけ方を工夫するなどの配慮をされている。グループホーム連絡協議会で開催するプライバシー研修会に職員が2名程度参加する予定であり、研修参加者は報告書を出すようになっている。管理者は言葉かけが慣れ合いにならないよう職員に対し指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、利用者の表情や反応を注意深く見守り、自己決定出来るよう心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけており、様子を見ながら、利用者の希望を訪ね過ぎて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の馴染みの美容室に出かけられたり、希望でホームに美容室より来て頂き、カット、パーマ、ヘアーカラーを行って貰っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を聞いてメニューに入れたり、楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしております。配膳や下膳をして下さる方もおられます。	現在、特に献立として計画するのではなく、食材の無駄を省くことも考え調理する担当者がメニューを決めている。野菜と魚を多く、肉類はあまり多くならないようにするなどの決めごとを設け、場合によっては調理本などを参考にしながら食事を提供している。行事食を設けて、食事の楽しみにつなげていることが窺える。本人の誕生日には食事のリクエストを聞くよう取組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調と摂取量を把握し、食事量も合わせて確認するようにしている。刻み食やトロミ食の提供も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れ、管理を確実に出来る支援をしている。毎食後口腔ケアを行い、嚥下傷害による肺炎の防止に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切に、リハビリパンツ、パットも利用者に合わせて検討しています。チェック表やボードを利用し、尿意の無い利用者にトイレ誘導を行っています。	日中はできる限り布パンツで過ごせるよう支援されている。排便についてはパターン表に記録されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をとり、排便の無い方には十分な水分補給を行い、下剤を使用する場合は個々の状態に合わせて使用量に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒まれる方に対して、声掛けの工夫や対応を行い、異性の職員を嫌がられる方へは同性の職員での対応を行っています。	入浴日は週3日(火木土)、予備日を日曜日として支援されており、毎日でも入浴できるようにしている。同性介助を希望される方にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルして保管し、職員に分かるようにしている。服薬は確実に行うよう飲み込み確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえようようお願い出来る仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつを持ってドライブへ出かけたり、利用者の希望で買い物など可能な限り外出の支援を行っています。	現在、人員体制も整い月1回程度の外出をされている。今後リハビリを兼ねた外出等の機会を増やしたい意向が窺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお支払いをされる利用者もいらっしゃいます。大きいお金は必要な時お渡ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや手紙を書ける様準備しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者の意見も取り入れ、自分が生活していること意識を高めて頂いております。	共用フロアには入居者の写真や季節の飾り付けなどがあり、本人が居心地良く過ごせるよう努められている。清掃状況も特に問題は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや座椅子を置き一人で過ごしたり、仲の良い方同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇、写真や思い出の品が持ちこまれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。	居室は、本人の馴染みの物などが持ち込まれている。持ち込み品についても特に制限等は設けていない。居室に設置しているクーラーも定期的に清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、環境整備に努めています。環境整備が万全とはいえませんが、職員の目配り、気配りで補っております。		